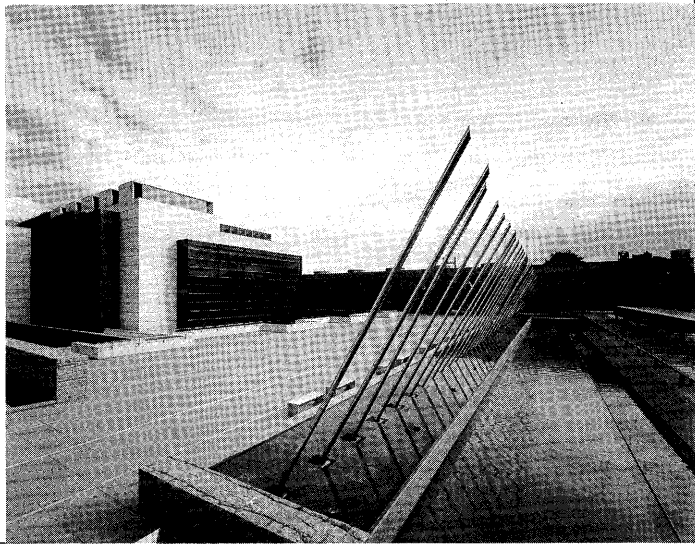


東京都現代美術館

所在地：東京都江東区三好4-1-1

設置：東京都

運営：財団法人東京都教育文化財団



■館の概要

1995年、都立木場公園の一角に開館。優れた美術作品に接する機会と創造・交流活動の場を広げ、個性豊かで自由な首都東京にふさわしい文化を創造・発展させることをめざしている。現代美術館として国内最大級のスペースを有し、美術図書室、ハイビジョンシアター、ビデオブース、画像検索システムコーナーなどからなる美術情報センターがある。美術図書室には近・現代美術に関する図書資料を中心に約70,000冊の美術関係図書、展覧会カタログ、2,000タイトルの美術関係雑誌が収められ、美術専門図書館として一般に公開されている。常設展示は、約3,600点の収蔵作品のうち約130点を展示し、年4回の展示替えを行う。企画展は年6回程度。

■情報システムの概要

1. 資料情報システム

東京都現代美術館では設立にあたり特に美術に関する情報機能が重視された。美術作品や作家に関する情報や文書、映像資料などを多角的に収集しコンピュータやAV機器などにより市民や研究者に提供することを目的に情報システムが構築された。

システムは、美術館職員向けのシステムと一般来館者検索システムからなり、美術作品情報、作家情報、図書資料情報、展覧会カタログ情報、逐次刊行物情報などを蓄積・提供している。システム構成は図に示したとおり、ホストコンピュータを中心としたネットワーク型のシステム。美術情報についてはホストコンピュータのハードディスクに作品の情報をフルカラーで蓄積し、館内のパソコンで検索・表示させる。職員向けのシステムと来館者用システムは同一データベースを用いているが、アクセスの資格を設定することで扱えるデータの範囲を分けている。

データベースに収録している画像の点数は約4,200点、作品文字情報は約9,000点。画像データ化するための著作権のクリアリングについては、著作権者に対して美術館内での利用に限るという条件で通知を送付した。そのため、館が提供しているインターネットのホームページでは画像情報を提供していない。

システムの開発にあたって基本設計以後は学芸員の声も聞きながら行ったが「十分に反映できたかどうかは疑問、システムの基本設計から発注者がイニシアチブをとれるかが課題」(館職員)。館内ネットワークは容量の大きなものを用いているが、検索から表示されるまでの速度が遅く、利用者にストレスがかかることは否めない。最終画面までのアクセス数が年間70,000回程度の利用となっている。システムの運営費としてはリース料を中心に年間1億円程度とのこと。

2. その他のシステム

都の財務システムの端末、パソコンによるチケット管理システムのほか、東京都の広報・施設案内システム「とみんず」が設置されている。

システム構成

